松浦淳介ゼミ



　本研究会では，主に現代日本における政治現象を対象として，理論的，実証的な研究を行います。現代日本政治分析は，政治学の一分野として，社会科学の理論やモデルの発展に寄与するのみならず，同時代の日本政治を深く理解し，またその行方を展望するうえでも，きわめて重要な意味を持っています。現代の日本政治はそこに暮らす人びとにとって，遠い過去の政治や他国の政治と比べて，とても身近なものであるため，誰もが「評論家」として，持論を展開し得る対象といえますが，社会に溢れる政治評論の中には，単なる印象論や根拠を伴わない規範論が少なからず散見されます。

　そこで，本研究会では，政治学的な観点から，日本政治に関する世間の「常識」を批判的に検討するとともに，主体的に政治現象を捉え，考察する能力を涵養します。また，単に政治学を「勉強」するだけでなく，自らオリジナルな「研究」を遂行することを目指します。私自身は主に日本の国会を対象として，実証的な研究を行ってきましたが，それ以外にも，首相のリーダーシップや政官関係，地方政治など，日本政治全般に強い関心を持ち，知的好奇心に溢れた学生を，法学部以外からも広く募集します。

・研究対象

　現代日本政治

・他学部生の受け入れ

　可　現在、経済学部の学生が一名在籍しています

・留学

　可

・ゼミ員の構成

　3年生11名

・ゼミ生からのコメント

　松浦ゼミは現代日本政治を専門に勉強、研究できる唯一のゼミです。この分野に興味のある皆さんは是非検討してみてください。松浦ゼミでは、日本政治にとても詳しい人も、入ゼミ時点では知識がなかった人も、互いに高め合いながら勉強と研究を進めています。ゼミ生は非常に仲が良く、オンラインでの飲み会なども定期的に開催しています。また松浦ゼミの大きな魅力の一つとして、松浦先生の学生との距離の近さがあります。松浦先生はよく授業中に政治家のモノマネをされるなど、とても面白く、情熱的な先生です。

・ゼミの進め方

　春学期は主に政治学の方法論に関する文献を輪読します。毎回、報告者が文献の内容を踏まえて論点を提示し、全員で活発な議論を行います。また、秋学期は輪読に加えて、三田論の準備も並行して行います。

・使用文献(2021年度春学期)

　久米郁男『原因を推論する』有斐閣、2013年。

　加藤淳子・境家史郎・山本健太郎『政治学の方法』有斐閣、2014年。

・連絡先

　松浦淳介研究会ツイッター　＠matsuura\_zemi